

# インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名 (フリガナ)		
フリガナ) ソウカジョシタンキダイガク	フリガナ) ゲンダイビジネスガッカ	フリガナ) ミズモトゼミナール
創価女子短期大学	現代ビジネス学科	水元ゼミナール

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) チームハピネス	フリガナ) イイダマサミ	3	無
チームハピネス	飯田正美		

## 研究テーマ (発表タイトル)

お昼に学ぶ介護～1分1秒を大切に！ハートフルライフを～

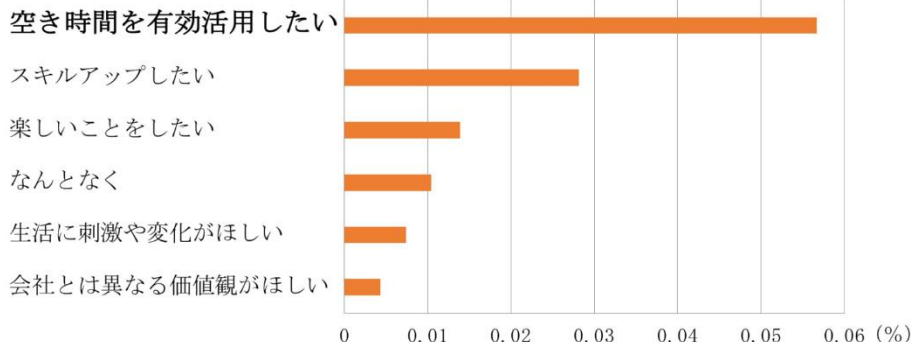
※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要 (目的・狙いなど)

最近需要が高まりつつある昼活に注目し、1日の限られた時間を効率良く使えば人々の生活はさらに充実したものへと変わるのではないかと考えた。そこで現代の社会問題の1つである高齢化に目を向け、介護を行う割合が増加し、介護に要する時間も増加している現状を踏まえて昼活に取り入れ、介護に関する講座を行うことで、人々の生活の質の向上に繋がらせる目的である。講座は働きながら介護を行っている方、介護について詳しく知りたい、学びたい方を参加対象とする。

### 2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

働いている人々は一日のスキマ時間や休憩時間を使って活動をしたいという傾向にあり、特にお昼の時間を活用した昼活では英会話やヨガなどが人気を集めている。この右下の表からも分かるように、休憩時間に勉強・自己研鑽や趣味、交流などの活動を行おうと思った理由では、最も多いものは「空き時間を有効活用したかったから」となっている。このことから社会全体の動きとして活用の効率化、時間の有効活用化が求められている。さらに女性であれば朝は食事の準備があり、そうでなくても朝の短い時間は仕事の準備などなくてはいけないので忙しくなかなか朝活を実践できていないのが現状である。夜は残業や仕事の疲れも溜まっているため、活動するよりも早く休みたいという方が多い。このようにやりたいことがあってもなかなかできないからこそ、お昼の時間の活用の仕方が見直されている。そこで私たちは、人々の生活をより良いものにするための時間活用方について考え、日本の高齢化問題と関連付けた。高齢化が進み、1人に対する高齢者の割合が増えており、それに伴って介護者数や所要時間も増えているのが現状である。



### 3. 研究テーマの課題

介護に関する講座を行うにあたって、どのようにして介護経験があまりない若者の受講者に興味を持たせるのか。また、実際に介護を体験したことがない私たち自身の介護についての知識が少なすぎるということ。実際に介護を行っている方々のニーズに応えられるのか。また、介護講座を行う際の収益性はどうか。経営として成り立つのか。

#### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

SNS を通しての宣伝、ポスターの活用をする。企業訪問を行って、介護の現場に触れる。介護を体験してみる。収益性について、企業の宣伝効果も見込んでいるため、一回の料金については低コストに抑えられる。福利厚生の一環として実施する。

#### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

八王子市にある「デイサービスフォローライフ ラムネの湯左入」に 7 月末にボランティアに行かせていただいた。実際に介護の現場に触れること、介護現場の実態を知ることが主旨に、半日ではあったが実際に介護を体験することができた。内容は、デイサービスを利用している方々と触れ合ったり、健康体操などのラムネの湯独自の取り組みなどを一緒に行った。また食事の配膳や後片付けも行い、日常生活に近い形で体験することができた。さらに、体験後に職員の方にお話を伺い、介護についての考え方、現在の介護の問題点、私たちの意見を話し合った。



写真：ボランティアをした時のもの(7 月末)

#### 6. 結果や今後の取り組み

利用者の方々とコミュニケーションをとることは簡単ではなく、身体の見え目や表情のみでの判断では健常者のようである方も、実は身体が不自由であったり、認知症を患っていたりなど、見ただけの情報では判断できないこともあるのだと感じた。利用者の方一人一人にあった接し方、その方の様態などをきちんと理解したうえでの接し方、コミュニケーションの取り方が必要であることを改めて実感することができた。また、仕事として介護を行っている方々の介護に対する姿勢を間近で拝見し、言葉のかけ方や、話すときの目線、表情や声のトーンなどの一つ一つに丁寧だけでなく信頼を生むような温かさが感じられ、そこには家族や身内で介護する場合とはまた違う良さがあり、仕事として介護をする場合との違いも学ぶことができた。仕事としてであるからこそその大変な部分と家族に対しての介護であるからこそその大変な部分は違うのだということにも気づかされた。新しい価値観を持つことができたことと共に、介護に対する私たちの考えも改めて見直し、より深めていくことができた。

今後の取り組みとして、実際に企業と提携して昼活を利用した介護講座事業を展開していく。講座内容もボランティアを通して学んだことを踏まえ、企業側にとっても受講者にとっても利益となる価値あるものにしていきたいと考える。

#### 7. 参考文献

総務省平成 23 年社会基本調査 (2016/6/10)

<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/pdf/houdou2.pdf>

調査結果ニューリリース—メディアケア生命保険 (2016/6/29)

[http://news.medicarelife.com/release/down2.php?attach\\_id=173&seq=1](http://news.medicarelife.com/release/down2.php?attach_id=173&seq=1)

総務省統計局 (2016/9/19)

<http://www.stat.go.jp/data/topics/topi971.htm>

森永乳業株式会社 (2016/6/28)

<https://www.morinagamilk.co.jp/download/index/1770/PARMhokkorichosa.pdf>

U-CAN 生涯学習のユークャン (2016/9/16)

<http://www.u-can.co.jp/index.html>

三幸福祉カレッジ (2016/9/16)

<http://www.sanko-fukushi.com/jitsumu/course/set/>

資格スクール大栄(DAIEI) (2016/9/16)

<http://www.daiei-ed.co.jp/iryojimu/>

ニチイまなびネット (2016/9/16)

<http://www.e-nichii.net/course/nurse/index.html>

ケア資格ナビ (2016/9/16)

[http://www.careshikaku.com/kaigofukushishi\\_guide](http://www.careshikaku.com/kaigofukushishi_guide)

シカトル (2016/9/16)

<http://www.sikatoru.com/>

資格サプリー (2016/9/16)

<https://shikakusapuri.jp/kaigo>

ヒューマンアカデミー (2016/9/16)

<http://haa.athuman.com/academy/medical/course/detail/10805101.asp?code=041039>

介護市場の経済学 著作:角谷快彦 名古屋大学出版会

図解入門業界研究 最新介護ビジネスの動向とカラクリがよ〜くわかる本

著作:川原経営総合センター 株式会社秀和システム

介護福祉士をめざす人の本'16 年版

監修:寺島彰 編者:コンデックス情報研究所 成美堂出版

## インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1〜7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、3ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。